

# 大牟田市立田隈中学校

## 1 本校のESDの特徴

教師は、生徒の主体性を育成するために、カウンセリングマインドをもって生徒指導に当たり、授業の中で生徒指導の3機能（出番・役割・承認）を取り入れ、集団で高め合う力を身につけさせている。教科授業とESDとの相互関係を図り、外部の人とふれあうことで一層自尊感情を向上させ、やる気を持って活動するようにしている。

その結果、3年生のほとんどの生徒は来校者への挨拶や、地域へ出かけていく様々な活動でも積極的なコミュニケーションをとることができている。また、それらで得られた情報を普段の学校生活や自分の将来の人生設計にも生かし、具体的な進路の実現につながっている。

3学年の生徒達は、ESDの精神にもあてはまるように、将来社会に貢献し、人々の役に立つような仕事をしたいと思えるように計画を立てている。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

	第1学年	第2学年	第3学年	地域との連携
学年の目標	体験活動をもとにして、人との関わり合いを学び、考え方や生き方を共有する。	課題をもって学習に取り組む、学習の成果をまとめて発表する。	自ら課題を設定し、自分のこれからの生き方や3年間を通じた学習から社会への参画について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の職業人</li> <li>・地元企業</li> <li>・福祉施設</li> <li>・幼稚園 保育園</li> </ul>
将来を見つめる (進路学習)	○車椅子バスケット体験とパラリンピックを学ぶ 	○職場体験（1学期） ・身近な職場での体験活動	○職業調べ（1学期） ・身近な職業人に聞く ○自分の将来について考える ・進路学習（1・2学期）	
誰もが幸せな社会とは (人権・福祉学習)	○福祉学習 ・認知症を学ぶ（1学期） ○平和学習（2学期） 	○異文化交流 ・修学旅行京都（2・3学期） 	○福祉学習 ・看護学習・看護の模擬体験（1学期） 	

## 3 特徴的な活動事例

### <第1学年

福祉学習 車いすバスケット体験>



目標：肢体が不自由な方と交流を深めることで、福祉に積極的に関わろうとする意欲を高めていこう。

内容：桜花台クラブ車いすバスケットチームの出前授業

- ・車いすバスケット体験
- ・講話、福祉DVD視聴

学んだこと：車いすバスケットを体験することで、足が不自由なことはすごく大変と思った。でも、障害になる物を除けば、普通に生活ができる。ふれあい共存・共生の大切さを学ぶことができました。

## <第2学年 職場体験>



目標：将来を見つめるきっかけとし、地域の働く人から勤労の意義を学び、社会貢献の喜びを知る。

内容：市内60カ所の事業所に分かれ、2日間、職場体験に従事する。

学んだこと：私が体験のした仕事では、朝からずっと立ったままで働くことは、こんなに大変なんだということがわかりました。また、お客さんともコミュニケーションをとらないといけないので、とても苦勞しました。ただ、『ありがとう』と笑顔で言ってくださったときは、とてもうれしくなりました。

## <第3学年 職業ガイダンス>

### 職業人に学ぶ(建築家)



### 高等学校看護科に学ぶ



目標：職業ガイダンスを受けることで、いろんな職種とそのための道のりを知り、具体的な自分の進路を見つけるきっかけをもたせる。

内容：8分野の職種について仕事をしている講師から2時間枠で、一人2種類の職種講話を聴いた。

学んだこと：職業とはこんなにたくさんあり、職業につくまでの具体的なことが分かり、どんな勉強をすれば良いのかがすごくわかりました。講師の先生方がわかりやすく熱意を持って授業をしていただいて、楽しかったし、将来への新たな希望を見いだすことができました。この企画をしていただきとてもよかったです。

## 4 成果と課題

### ○成果

- ・1年生の福祉学習では「車いすバスケット体験」、3年生の進路学習では、様々な職種の方々をGTとして「職業人に学ぶ」講話を実施した。
- ・福祉学習では、講話の中で東京パラオリンピックに向けてアスリートとして努力している姿や社会で立派に活躍している姿を見ることができた。障がいに対する考え方が変わり、共生・共存の精神にのっとったインクルーシブ教育を進めることができた。
- ・進路学習では、将来の職業を見通して進路を考えさせるために、職種や専門的知識を学ばせる場をつくった。現場人の生活を直接聞くことで、生徒の意欲向上に役立たせることができ、進路への意識を高め成果を上げることができた。

### ○課題

- ・成果のある取組を継続し、発展できる内容及び計画を立てる必要がある。